

社協だより

社会福祉法人 関ヶ原町社会福祉協議会

しあわせ

2022年
1月1日発行
No.178



11月27日 関ヶ原町社会福祉大会開催

関ヶ原ふれあいセンターにて、第18回関ヶ原町社会福祉大会を開催しました。
(詳しくは、3ページに記載)

この広報誌は、みなさまの会費及び共同募金により発行しています。



新春のご挨拶

社会福祉法人 関ヶ原町社会福祉協議会

会長 三輪 均



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、令和4年の輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、社会福祉協議会の事業推進に対しまして格別なるご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は、一昨年から続く新型コロナウイルスの感染から始まりましたが、11月以降には全国的な感染者の減少が見られ、元の生活を取り戻しつつあるという状況ではありました。しかし、新たな変異ウイルスの出現によりまして、この先の見通しがまた見えにくくなってしまい、このような状況の中で新年を迎えることとなっています。3回目のワクチン接種も始まっていますが、町民の皆さまが早く本来の生活が送れるようになることを願うばかりです。

ところで、関ヶ原町社会福祉協議会では令和3年3月に、第5次関ヶ原町地域福祉活動計画「ふれあい福祉プラン」を策定させていただき、「支え合いのしくみづくり」「地域福祉を支えるひとづくり」「安心が生まれる支援づくり」の3つを基本方針として、包括的な支援体制の整備による新しい時代の福祉の町「地域共生社会」を目標として事業を進めております。

コロナ禍に一定の落ち着きが見られた昨年11月27日に、第18回関ヶ原町社会福祉大会を開催し、岐阜大学流域圏科学研究センターの講師にお越しいただき、断層と地震のゆれを通し、減災について考えていただく講演会を実施いたしました。近年日本各地で頻発する地震災害や豪雨災害等は、多くの人の日常生活を一瞬にして変貌させてしまいます。町民一人ひとりの「命を守る行動」と「命を守る支え合いの活動」が推進されるよう、平素からの災害に対する防災・減災意識の浸透に努めてまいります。

また、地域福祉の基本である「地域での支え合いや見守り体制」の強化については、その体制化を支援するモデル事業として、ほのぼのネットワーク「地域支えあい」事業を進めております。この事業の実施を更に働きかけていくとともに、あわせて困りごとサポート・買い物支援・移送サービス等の生活支援事業を推進し、また生活支援コーディネーターによる地域サービスの創出・調整等を通して、地域による活動の支援を進めてまいります。

さらに、ボランティアセンター事業によるボランティアの育成や小中学生を対象とするボランティアスクールの開催や福祉教育への支援等、次の関ヶ原町の福祉を支える人材の育成にも力を注ぐなど、基本理念である「互いに助けあい、安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現のため、本年も各種事業の推進に取り組んでまいります。

もちろん、事業を進めるにあたっては、地域住民の抱える生活課題やニーズを把握することが必要であり、新たな支え合いのしくみづくりとして、各自治会、民生委員・児童委員及び福祉推進員並びに各団体のボランティアの皆様のご協力は必要不可欠なものとなります。一層のご理解とご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げます。

最後とはなりましたが、この新しい年が皆さまにとって幸福に満ちた充実した一年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

第18回 関ヶ原町社会福祉大会

11月27日(土) 関ヶ原ふれあいセンターにて、第18回関ヶ原町社会福祉大会を開催しました。

第1部の式典では、社会福祉活動に積極的に取り組まれた方々等へ表彰状・感謝状を贈呈しました。第2部では、防災・減災について考える『げんさい楽座』を開催しました。

第1部 大会式典

表彰等を受けられたみなさん(敬称略・順不同)

表彰状贈呈者	<民生委員児童委員>	・河合 みどり	・酒井 知子	
	<ねたきり老人介護>	・三和 和江		
	<福祉活動>	・災害ボランティアコーディネーター関ヶ原		
		・高木 英子	・北川 史郎	・小畑 喬
		・田邊 成一	・根本 肇子	
	<福祉推進員>	・多和田 義明		
感謝状贈呈者	<多額寄付者>	・小畑 喬		



第2部 げんさい楽座

第2部では、岐阜大学流域圏科学研究センターの久世^{くせ}益充^{ますみつ}准教授による「関ヶ原のゆれを考える」と題した講演「げんさい楽座」を行いました。

「げんさい楽座」は、岐阜県と岐阜大学が協同設置した「清流の国ぎふ防災・減災センター」により、毎月、県内各所で住民と意見交換などを行いながら開催されています。77回目の今回は関ヶ原町での開催ですが、コロナ禍のため、グループワークなどは行わず、講演を聴き、質問をする、という形をとりました。

関ヶ原町の地盤は固い方ではありますが、関ヶ原付近にも断層が通っており、場合によっては強いゆれが起こるとのことです。ちょうど130年前の濃尾地震を顧みてもわかるように、決して安心はできません。久世先生も「地震の備えは、今、できることをする、ということが大切です。」と話されていました。



来場のみなさんは熱心に聴講され、講演後には時間いっぱいまで質疑の手が上がりました。

大地震の発生は今日かもしれない、明日かもしれない。町から配付されている「地震ハザードマップ」を参考に、住まい周辺の危険度、備蓄品、避難について考えてみましょう。

NO.
137

ボランティアセンターだより

さわやか



少しずつ動き始めたボランティア活動

9月に発令された、新型コロナウイルス感染防止対策のための緊急事態宣言が解除された後、活動が止まっていたボランティア活動が、10月後半からゆっくり、少しずつ、動き始めました。

活動の様子を紹介します。

人形劇「ふれあい劇場 愛・あい座」

10月19日、町内の老人ホームで人形劇の上演をおこないました。11月25日には垂井町の表佐まちづくりセンターで披露しました。

2年続けて合戦祭りでの上演がなくなり練習も中止していたので、「久しぶりの上演はうれしいけれど、もっと練習する時間がほしかった。」とおっしゃっていました。

「災害ボランティアコーディネーター関ヶ原」

10月30日に2年ぶりに災害ボランティアセンター設置・運営訓練をおこないました。

コロナ禍では、ボランティアの募集に特別な配慮が必要になります。岐阜県社協から、ボランティア募集はインターネットの事前登録システムの利用が提案されています。

新システムや一連の内容の確認をおこない、2時間程度の訓練となりました。



手づくりおもちゃで園児と交流 「ボランティアれんげ」

保育園を訪問することはまだむずかしい中、手作りのおもちゃをお届けしようと、10月27日におもちゃ製作をおこないました。牛乳パックをパズルのように組み合わせて遊ぶ楽しいおもちゃを作り、11月24日に西保育園へ、12月1日に東保育園に届けました。

来年は保育園を訪問して子どもたちと交流できることを楽しみにしています。



傾聴ボランティア「あのねの会」

休止していたやすらぎの「カフェだんらん」が10月29日に再開され、さっそくメンバーは傾聴を兼ねたスタッフとして参加しました。

デイサービスセンターでの傾聴活動などはまだ控えています。安心して訪問できる日がくることを願っています。

コミュニティカフェ「憩いの郷 あん」

以前の開催場所の中央公民館から社協センターに場所を移して11月8日に再開しました。感染防止対策を施しての開催ですが、訪れた皆さんは、久しぶりに顔見知りの方々と会われて本当にうれしそうです。

高齢者の集える場所の大切さを改めて感じました。

「ボランティア連絡協議会」・「日赤奉仕団」

11月8日、中央公民館において、ボランティア団体の代表者と日赤奉仕団員がスキルアップ研修をおこないました。

初めに赤十字講習でAEDの使用方法和救命救急法についてDVDを視聴し、講義を受けました。その後、高木会長の指導による手話講座をおこないました。

今だからできることを、とスキルアップに努めました。





福祉協力校だより

関ヶ原小学校



インスタントシニア体験

関ヶ原小学校4年生は、総合的な学習の時間に、「やさしい町 関ヶ原」というテーマで、関ヶ原町の福祉について学習をしています。

1学期には、社会福祉協議会の谷口さんを講師にお招きして、「福祉とは何か」という話をさせていただきました。また、関ヶ原ふれあいセンターの図書館の方に、福祉の本をたくさん紹介させていただきました。

2学期には、関ヶ原町役場やふれあいセンターを見学し、町内の施設におけるバリアフリーを調べる学習をしました。その後、おもりのついたサポーターやアイマスク、手袋などをつけてインスタントシニア体験を行い、高齢者の気持ちを考えたうえで、自分たちにできることは何かを考えていきました。

【児童の感想】

○インスタントシニア体験をして、体が重かったり、あまり見えなかったりして、高齢者は大変なことが分かりました。目があまり見えなかったり、耳が聞こえにくかったりすると、とても不安になりました。これからは、高齢者にやさしく接したり、何か手伝ったりしたいと思いました。



【児童の感想】

○ぼくは、インスタントシニア体験をして、おもりを首にかけたひもなどで、少し前のめりになって、こけそうになるときもありました。しかも、足首につけたおもりで足が重く感じました。ひざやひじにつけたサポーターで手足が曲げにくくて、階段が上りづらかったです。(中略)今回は体験だったけれど、本当の高齢者の方はずっと生活しづらいということが分かったので、もし見かけたら、助けてあげたいです。

【児童の感想】

○私は、インスタントシニア体験をして、大変だということが分かりました。足が重くて、首が痛くなったり、耳が聞こえづらくなったりして、おばあちゃんがいつもこんな気持ちなんだということが分かりました。そして、全ての道具をはずしたとき、体が軽く感じてびっくりしました。この貴重な体験をして気付いたことを大切に、これからもお年寄りを大事にしたいと思いました。そして、自分がお年寄りになったときも、大切にされたいと思いました。



相談日 しあわせ相談センター

- 場所/国保関ヶ原診療所 北棟1階
- 時間/午後1時30分～午後4時
- ご相談は無料

	心配ごと相談 ※人権相談 合同開催	弁護士相談 弁護士 吉田和永 ※行政相談 合同開催	結婚相談
1月	10日(月) 相談員 安藤道子 相談員 不破英明	22日(土) 相談員 北村 稔 相談員 吉田植昭	22日(土) 相談員 池田ひさ子 相談員 不破昭代
2月	10日(木) 相談員 吉田植昭 相談員 不破英明	19日(土) 相談員 吉田植昭 相談員 山根とも子	19日(土) 相談員 池田ひさ子 相談員 名賀石里子

※1月の弁護士相談、行政相談、結婚相談は第4(土)に開設します。
 ※弁護士相談は予約が必要です。
 ※都合により日程等を変更する場合がございます。ご了承ください。

善意のご寄付

10月16日から12月15日分まで(敬称略)

匿名.....お米
 匿名.....お米
 匿名.....お米
 匿名.....お米
 匿名.....お米
 西脇義郎.....お米
 お米は岐阜県社会福祉協議会を通じて、フードバンク活動を行っているNPO法人セカンドハーベスト名古屋へ送ります。

ありがとうございました。



せくらんぼ通信

生活介護事業所 さくらんぼの家 TEL43-1525

11月11日(木)、さくらんぼの家では“運動の時間”に笹尾山へみんなでウォーキングに行きました。

赤、オレンジ、黄色と色鮮やかな紅葉に包まれ、気持ちいいひと時を過ごしました。

今回はウォーキング以外にも「シャボン玉体験」を行い、シャボン玉の液につけた棒を振ると大きなシャボン玉ができ、振り方を変えて色々な形を作って楽しみました。

また、施設敷地内の各所に置かれたマスコットを探しに歩いてかんだり、普段と違う動きをしながら、運動の時間を楽しみました。利用者みなさんからは、「いつもと違って楽しかった。」と満面の笑みがこぼれました。

